

5 . 水利用の現状

5 - 1 水利用の現状

(1) 水利用の概要

天塩川は、古くから農業用水を主体として水利用がなされてきた。

農業用水としては約 29,400ha の耕地に 77.6m³/s が利用されている。

天塩川における利水の現況は、表 - 11 に示すとおりであり、農業用水をはじめ工業用水，上水道用水などに広く使われており、さらに水力発電にも積極的に利用されている。

使用水量については、発電を除けば大半が農業用水であり、地域的には、名寄市，士別市に水利用が集中している。

表 - 11 天塩川水系水利用の現況（法定河川内の許可水利）

名 称	最大取水量（ m ³ /s ）	件 数	摘 要
か ん が い	77.57	281 件	
水 道	0.33	6 件	
鉱 工 業	1.08	3 件	
そ の 他	1.57	14 件	
発 電	50.13	3 件	
合 計	130.68	307 件	

出典：「一級水系水利権調書」北海道開発局

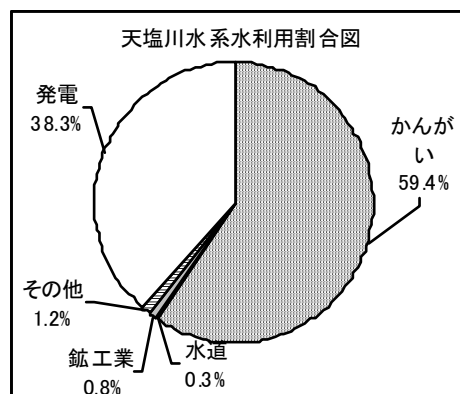


図 - 18 水利用割合図



士別市剣淵川合流点周辺に広がる水田地帯

出典：旭川開発建設部

(2) 農業用水

天塩川本川最下流の取水施設は、河口から 120km 上流の美深町にある西里揚水機場である。美深町から下流の地域では、ほとんど水稲作付けは行われていない。

水田のほとんどは、名寄盆地に集中しており大規模頭首工等も同盆地に集中している。かんがい普通期における取水量が、1 m³/s を越える取水施設は本川に 7 件ある。また、施設の統廃合が進んでいる。法定河川からの取水により賄われる耕地かんがい面積は、約 29,400ha に及ぶ。

(3) 水道用水

名寄市水道は名寄川真勲別頭首工から最大約 11,200m³/日、士別市水道は天塩川から最大約 11,000m³/日の取水している。その他の地域・陸上自衛隊・事業所等は、簡易水道等をもって賄っている。

(4) 工業用水

天塩川流域には澱粉工場、雪印等の乳製品加工工場、製粉・製菓・製パン等の食品加工工場等が点在している。名寄川真勲別頭首工から最大約 50,000m³/日の取水を行う北陽製紙工業用水が最大であり、表 - 11 中の鉱工業用水の約 5 割を同工場が占める。

(5) その他・発電用水

天塩川流域には、岩尾内発電所・ポンテシオ発電所・仁宇布川発電所の 3 発電所があり、総最大出力約 26,000kw の電力供給が行われている。

5 - 2 渇水被害の概要

天塩川では過去、昭和 51 年、昭和 55 年、平成 5 年等、積雪量の不足や夏場の雨不足による渇水被害をうけており、昭和 53 年には士別市長を会長とする「天塩川水系天塩川上流士別地区渇水調整協議会」が設立されている。

近年においては平成 5 年の渇水が深刻で、7 月の雨不足により水稻をはじめとする農作物に被害がでるとともに、岩尾内ダム貯水量が常時満水容量の 3%まで低下した。

このため、渇水協議会において 35%の農業用水取水制限を決定し、7 月末から渇水対策を実施していたが、ついに岩尾内ダムが枯渇し、農業用水の取水がストップする事態となった。

平成 5 年 8 月 5 日 北海道新聞社

平成 5 年 8 月 13 日 読売新聞社



出典:渇水報告書